

広報見聞録

せたな町の地酒「よしこ」が2年ぶり復活！

～「よしこ」復活祝賀会～

Koho - kenbunroku



不屈の精神で復興を遂げた岩手県陸前高田市の「酔仙酒造」今野社長も祝賀会へ駆けつけました



▲2年ぶりに「よしこ」で乾杯 ▲復活した「よしこ」 ▲せたな町の地酒もこれで勢揃い

4月13日（土）、せたな町民ふれあいプラザを会場にせたな町の地酒（日本酒）である「よしこ」の復活祝賀会が開催されました。「よしこ」は北檜山区産の「きらら397」を100%使用し、平成16年に誕生した地酒です。

その醸造元としてせたな町へ多大なる協力をいただいていた岩手県陸前高田市の「酔仙酒造」が、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の大津波で壊滅し、「よしこ」はもちろん、日本酒の製造・販売が中断されておりました。

しかし、酔仙酒造は、昨年8月に大船渡市に新工場を完成させ、不屈の精神で復興を遂げました。そして遂に「よしこ」の醸造も再開し、この度、4月6日より新種純米生原酒「よしこ」の販売が再開されることに伴い、販売元である(株)北檜山観光振興会社の主催で4月13日（土）に復活祝賀会が開催されました。

当日は見事な復活を遂げた「酔仙酒造」の今野社長や関係者が駆けつけ、一時は消滅もささやかれた「よしこ」の復活と「酔仙酒造」の復興を盛大に祝いました。

祝賀会では「よしこ」ができるまでの物語をつづったDVDの上映や、地元手打ちそば愛好会による手打ちそばの実演、歌謡ショーなども行われ祝賀会に花を添えました。

「よしこ」が復活し、これでせたな町の地酒（日本酒）は、瀬棚区の有機米を使った「吟子物語」、若松のふっくりんこを使った「北の白虎」と2年ぶりに3本が揃うこととなります。

編集後記

●4月から新人職員として広報を担当させてもらうことになりました見島です。この1カ月は、尾野係長にいろいろと教えてもらい、広報の仕事も少しずつ覚えていきます。今月号の広報せたなには私たち新人職員の紹介が掲載されているので、ぜひ、ご覧下さい。これからよろしくお祈りします。（見島）

●4月から担当となりました「尾野」です。昨年まで商工観光の担当をしておりました。素人そば打ち「2段位」、日本ビール検定「2級」の資格？を持つ37歳の男です（笑、よろしくお祈りします。先日、新人の見島さんと幼稚園に取材に行ったときの話ですが、見島さんと親しく話していた幼稚園の先生（私の同級生）に「知り合いなの？」と聞くと「うん、教えた子だったの：」「…えっ？教えたの？」と私。自分が通っていた幼稚園で同級生が先生をしているってだけでも歳を感じるのに、一緒に働いている新人くんが教え子だなんて：現実逃避していたその年の差を突きつけられた瞬間でした：。気づいたら私もアラフォー世代。こんな若者と働く日が来るとは…。しっかりと頑張ります！そんな私は瀬棚区で合併まで6年間広報を担当してましたので、経験者といえは経験者なんです。6年のフランクとこれだけ大きくなった町、今はどれも大きなプレッシャーです。そんななかでも何とか自分のカラーを出していきたいと思っています。皆さんに毎月楽しみにしていただける広報になるよう各区の担当とも頑張っていきますので、今後ともよろしくお祈りいたします。（尾野）

編集・発行 せたな町総務課広報統計係  
〒049 - 4592 久遠郡せたな町北檜山区徳島63番地1  
☎0137 - 84 - 5111 / ☎0137 - 84 - 4657

●せたな町公式サイト  
<http://www.town.setana.lg.jp/>

せたな町のホームページは、  
QRコードで簡単にアクセス！  
※縦向きより開くことができます。

